閉校，統合と子どもたち

大館市立東館小学校　教頭　乳井　昭久

１　はじめに

昨年度，大葛小は，約１０ｋｍ離れた児童数約６倍の東館小と統合した。この時，大葛小からの子どもたちの学習環境は一変した。しかし，幸いなことに大葛小から東館小に通学することになった子どもたちの中に，深刻な不登校状態に陥った子どもはいない。大葛小の子どもたちが，学習環境の激変を乗り越えることができた要因は，何だったのだろうか。

２　閉校年度（平成２３年度）の大葛小学校，東館小学校

(1) 児童数と教職員数の比較

大葛小　児童数：教職員数＝　２１：１０　⇒　２：１　教職員１人あたり児童２名

東館小　児童数：教職員数＝１１６：１５　⇒　８：１　教職員１人あたり児童８名

(2) 考察等

・大葛小の子どもたちは，東館小より数字の上では４倍も直接教職員と関わっている。

・両校ともに学級編制が無いため，学級は固定的人間関係になりがちである。

・閉校，統合は子どもたちにとって大きなショック（心理的負担）と考えられる。

(3) 大葛小の良い思い出を通して子どもたちの心を豊かに

・閉校記念の標柱を頂上に設置した竜ヶ森登山（６月）

・あきた白神体験センターに宿泊し体験学習に取り組んだ全校森林環境教室（７月）

・おおくぞ子ども盛り上げ隊を結成し県ＰＴＡの補助金を活用した親子キャンプ（８月）

・古紙や空き瓶の回収で得た代金を活用して実施した盛岡市への全校バス遠足（10 月）

・比内芸術文化祭で女子児童全員で発表した大葛の郷土芸能「からめ節」（11 月）

・県統計功労で学校表彰，県「家族の絆」エピソードコンクールで最優秀賞（11 月）

・東館小を訪問し交流学習（東館小の学級に入り大葛小教師からも授業を受ける）

・閉校記念誌の作成（閉校年度在籍児童について約１０ページ確保）

・卒業・修了・閉校式の期日設定の工夫（３／１９卒業式，２１修了式，２５閉校式）

３　統合１年目（平成２４年度）の東館小学校

☆環境が激変する大葛からの子どもたちを不登校から守る。

・あいさつ運動「おはよう」（コミュニケーションの糸口，声をかけ合う習慣形成）

・日々の情報交換，職員会議での情報交換等

・大葛小時代の特色ある体験学習等（椎茸菌植菌・収穫，大葛小キャンプ場で親子レク）

・運動会（開・閉会式で大葛の子どもたちを前列に，大葛地区の保護者テントを中央に）

・未来科で著名人を招聘（東館小で学ぶ良さの実感，著名人から励ましの言葉）

　→　長崎宏子，田部井淳子，豪風関，お三方ともに「あきらめないことが大切！」

・学習発表会で郷土芸能発表（四つの郷土芸能，伝統文化の相互理解，他地区の尊重）

・東小ドリームロード（校門から玄関まで花壇を整備，努力が花開くよう願いを込め）

4　統合２年目（平成２５年度）の東館小学校

☆大葛からの子どもたちを統合２年目も不登校から守る。

・あいさつ運動「おはよう」そして「こんにちは」（糸口の強化，場の確保）

・日々の情報交換，職員会議での情報交換等

・大葛小時代の特色ある体験学習等のさらなる実施（大葛小時代の学校田で田植え・稲刈り，大葛で地区探検・環境学習，教育長高橋先生による砂金教室）

→　大葛に誇りを持つ，大葛のよさを知る，大葛から通学する友達を大切に思う

・学校報を保護者配布から学区約１０００世帯全戸配布へ（地域の学校理解を深める）

・未来科や学習発表会での郷土芸能発表の継続，東小ドリームロードの充実

5　大葛小と東館小の比較より

①　大葛小は対等な立場の友達がほとんどいないが，東館小はたくさんいる。

②　大葛小は教職員と，東館小は同級生と直接関わる割合が高い。

③　大葛小は地域と大変濃厚に関わるが，東館小は大葛小ほどではない。

④　大葛小は異年齢集団の中で，東館小は同年齢集団の中で過ごす割合が高い。「対等な立場の様々な同級生との関わりが極めて少ない状態」で大葛小の子どもたちは過ごす。

→　よりよい成長，バランスのよい成長を遂げる上で「大きな課題！」

→　児童心理学者（東京学芸大学名誉教授）深谷和子先生　「先輩，後輩の関わりは比較的やさしい（上下関係）。同級生同士の関わりは難しい（対等な立場）。」

⑤　大葛小の部活動は全員参加。東館小は原則自由。

⑥　大葛小の子どもたちはたてわり活動に慣れているが，班のメンバーは結果的に固定的。

⑦　大葛小の子どもたちは，大人と接触して学校生活を過ごす割合が非常に高い。

6　統合後の欠席状況（※大葛小からの子どもたち）

１年目，２年目ともに，深刻な不登校状態に陥った子どもはいない。

7　児童アンケート調査より（※平成２５年１２月実施，調査対象は大葛小からの児童１０名）

①　大葛小が閉校すると知った時 → すべての子どもが「かなしい，さみしい，いやだ」

②　統合して東館小に初めて登校した時 → ９０％が「これからが心配」

③　東館小に「なじめたな，親しみを持てたな」と感じたのは → ７０％が「４月」，１０％が「９月」，１０％が「１１月」，１０％が「１月」

④　すべての子どもが「１年以内になじめた，親しみを持てた」を選択。その要因は，教職員や周りの子どもたちの配慮，そして本人の努力。

⑤　たくさんの子どもたちのいる学級 → ４０％が「楽しい」，６０％が「落ち着かない，不安になる」。（高学年女子に多い）

⑥　東館小の良いところ → 「たくさんの友達や同級生がいる」，「未来科などの学習等」

8　終わりに

閉校校が極めて小規模の場合，子どもたちは対等な立場の様々な同級生との関わりが極端に少ない状態で学校生活を送る。だから，遙かに規模の大きい統合先の学級では，円滑な人間関係等を築くのに日数がかかる場合がある。この時，本人の努力のほかに大切となるのは友達からの親切，教師からのあたたかい言葉かけや指導助言等である。これらが原動力となり，大葛小からの子どもたちは統合先の東館小で日々がんばることができている。